

1	池谷・入山モデル作り事業
1－1	山清水米直販
・平成 28 年産米 山清水米の全生産者が新潟県の「特別栽培米」の認証を取得し、和日米会様の「限界集落プロジェクト（郷プロジェクト）」に 6,300kg(105 俵)、農民運動全国連合会に 120kg(2 俵)、飛渡の未来を創る会に 20,700kg(345 俵)を出荷しました。 一般販売分としては、「山清水米」6253.3 kg(約 104 俵)、「超特選 農薬・化学肥料不使用『山清水米』はざ架け米」（以下はざ架け米）639.3kg(約 10 俵)を出荷しました。 ・平成 29 年産米 和日米会様に 3,900kg (65 俵)、飛渡の未来を創る会に 13,470kg (224.5 俵)を出荷しました。一般販売分としては 3 月末時点の発送済と予約分で 5292.25kg(約 88 俵)、はざ架け米 478kg(約 8 俵) の販売量となっています。	
1－2	農業生産
2017 年度は田んぼの面積がさらに増え、2 町 4 反（24,000 平方メートル）の田んぼを耕作することとなりました。 一昨年と違い冬の間の雪の量は平年並みでしたが、夏場から稲刈りの時期にかけての長雨や、管理不足により今一つの収量となってしまいました。 ライスセンター建設について、去年に続き着工に向けての話し合いを行ないました。 野菜については、一昨年秋に約 2000 粒植えたニンニクの収穫を 6 月中旬に行いました。8 月 10 日頃には学校給食用のジャガイモを収穫し、その後ポップコーン植え、9 月の稲刈り前にニンニク植え、稲刈りが終わったところにポップコーンの収穫をしました。	
1－3	加工品開発・販売
2017 年度は「山菜炊き込みご飯の素」を完売をもって販売終了し、今後は大口注文のみの受注生産品とさせていただきます。 また、主力商品である「山清水米白がゆ」に関しては、東京・兵庫の神社様から継続して注文いただいております。更に販路を拡大していきたいと考えています。	
1－4	体験交流
2017 年度は 5 回の体験イベントを開催し、のべ参加人数は 117 名となりました。また、交流人口は 637 名でした。 ・飛渡の山菜を楽しみ尽くす会！、田んぼへ行こう！（田植え・稲刈り） 「食と農を考える飛渡の会」と協働し開催しました。「田んぼへ行こう！」では、昨年につづき飛渡地区の田んぼで「田んぼアート」の田植え・稲刈りを行い、食事は株式会社 YELL（エール）とコラボし、同社が経営する市内のレストラン「ALE beer&pizza」の料理をふるまっていただきました。 ・池谷東京ヨリアイ 昨年の「ありがとうの会」を発展させた内容として、活動紹介のほか、NPO 地域おこしが抱える課題に対して参加者の方とディスカッションを行いました。この中から出たアイディアをもとに、「新米を食べる会」を開催したり、BBQ セット（地元産豚肉と野菜のセット）の試験販売などを行いました。今後も年に一回の頻度で、首都圏で集まる機会を設けていく予定です。	

・各団体・イベント受入れ 2016 年にも受入れを行った敬和学園高等学校修養会の農業体験受入れ、(一財)新潟ろうきん福祉財団主催の「地域づくりコーディネーター養成講座」を初めて受入れました。 昨年までNPO主催で開催していた「やまんなかマルシェ」は、2017 年から「やまんなかマルシェ実行委員会」として独立運営することになり、池谷分校を会場として提供しました。	
2	地域おこし応援事業
2-1	視察・講演・研修会
・視察 新潟県内・県外から 14 団体 179 名の方にお越し頂きました。 ・講演 39 会場に訪れ、2037 名の方に聞いて頂きました。講演を聞いた方から個別に新たな依頼を頂くようになり、地域おこしのモデルを全国各地に広めていくという事が少しずつ形になってきています。	
2-2	地域おこし応援活動
1) 新潟県内の「地域づくりに関する意見交換会」に年間を通じて 7 回参加し、県内の中間支援組織や行政職員の方々と今後の地域づくりに関してビジョンを作成し、そこに向けた取り組みを開始しました。具体的には地域づくりコーディネーター育成事業を行う事になりました。 2) 新潟県糸魚川市で地域おこし協力隊のアドバイザー事業を行い、行政・地域の関係者・地域おこし協力隊員が前向きに取り組むための支援を行いました。 3) 新潟県の「地域の話し合い促進事業」で魚沼市守門地域の地域づくりに関して講演やワークショップのファシリテーターとして 3 回訪問し、地域の人たちが今後目指したいことを明確化しました。	
2-3	十日町市への移住促進
1) 新潟県十日町地域振興局の主催で、9 月 2 日に開催された「ツマ리카フェ」で事務局長の多田が進行役を務めました。ドイツ出身で十日町市の竹所集落に移住し、古民家再生を手掛けるカール＝ベンクスさんと、アメリカ出身で津南町に移住し、イングリッシュアドベンチャーを運営するデイズ＝パドックさんにゲストとしてお越し頂きました。 2) 十日町市内の企業と移住希望者を結びつけるため、有料職業紹介事業の許可を受けました。 3) 昨年度に続き、十日町市への移住・交流情報を掲載したホームページ「さとナビ」の運営を行いました。 さとナビ：http://www.tsukurou-tokamachi.jp/ 4) 十日町市内 3 地域に、6 名のインターンシップ受入のコーディネートを行いました。(委託元：十日町市 事業名：にいがたで「暮らす・働く」応援プロジェクト) インターン生たちは 20・30 代の若者で、活動内容は主に農作業、受入れ地域によって古民家再生、地域のカフェ・農家レストランの運営のお手伝いや、「大地の芸術祭」のボランティアなどを体験しまし	

た。活動レポートを「さとナビ」で情報発信しました。

【受入地域・人数】

- ・東下組の復興と将来を考える会（4名）
- ・池谷集落（1名）
- ・竹所集落（1名）

本事業は、十日町市の実施終了にともない、2017 年度で委託終了となりました。

3	地域復興支援員設置事業
---	-------------

2017 年度で 5 年間続いた地域復興支援員設置事業（里山プロジェクト）が、中越大震災復興基金の区切りの関係で終了となったため、これまでの活動を継続しつつ、今後につながる体制作りとこれまでの活動の総括を行いました。

通常の活動としては、前年度までに引き続き、主に次の 3 つの柱で活動を行いました。

- ① 地産地消率向上事業（農業生産基盤保全事業）
- ② 移住・交流及び外部人材活用事業
- ③ 集落活動維持事業

幅広い取り組みを行いましたが、紙面の都合上、今後につながる体制作りとこれまでの活動の総括についてここに記載いたします。

○今後につながる体制作り

①地産地消率向上事業

新たに組み替えた復興基金を活用し、事業名「学校給食における地場産農作物安定供給のための支援」として生産出荷者の学校給食用食材の安定供給を進める地産池消コーディネートの役割を果たすことを、主に各地域の生産者団体との情報交換やアドバイスを通じて実現する道筋を取りつけました。

②移住・交流及び外部人材活用事業

東下組地区で地域主宰のインターン制度構築の働きかけを行い、実施に向けて検討する方向性を得ました。

③集落活動維持事業

高齢者サロン運営組織の自立支援について、参加者数の維持・増加があり、自主運営をして継続する意思を導き出すことが出来ました。

○これまでの活動の総括

「里山プロジェクト 5 年間の活動のあゆみ」を冊子として作成しました。5 年間の中山間地支援や地域おこし協力隊支援の取り組みから見てきた事を活動の報告も織り交ぜながらノウハウを体系的に整理してまとめました。

2018 年度からは復興支援員のメンバーで一般社団法人里山プロジェクトを設立し、NPO 法人地域おこしから独立する形で、引き続き中山間地の支援や、地域おこし協力隊の支援、学校給食の取り組み等を行う事になりました。

組織形態が変わることになりますが、引き続き NPO 法人地域おこしとともに、一般社団法人里山プロジェクトもよろしくお願いいたします。	
4	管理部門
4-1	池谷の将来を考える会
2018 年 4 月 7 日に、「池谷の将来を考える会」を行いました。2010 年「5 年後を考える会」、2015 年「3 年後を考える会」を行ってきて、今回で 3 回目となります。 集落の状況が年々変化していく中、自分たちで集落の将来を考え、共通認識を持って集落づくりを進めていくことは大きな意義があると感じます。 描いた未来がひとつずつ形になるよう、また既にある活動がより深まったものになるよう、集落一丸となって邁進していきたいと思います。	